

達成度：H24.3.31 の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

経営企画課の目標（平成24年度）自己評価書

経営企画課長 鈴木 正義

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 総合計画の進行管理（企画総合調整班）</p> <p>新たに平成24年度からスタートした第5次酒々井町総合計画で掲げた目標の実現を図るため、前期基本計画において予め設定した戦略的・重点的に取り組む成果指標の達成状況について、施策を効果的に実施するため進行管理を行っていきます。</p>	4	<p>第5次酒々井町総合計画前期基本計画に掲げる主な事業・施策の進捗状況や達成度を把握し数値化することで、継続的な見直しや改善を図り、事業の効率的な推進に努めました。</p>
<p>2 マスコットキャラクターの作成（企画総合調整班）</p> <p>町総合計画に基づき、町のブランド力を高める魅力づくりや「郷土・酒々井」に愛着と誇りを持ち、住んでよかったと思える、満足度の高い自立したまちづくりを進めていくため、その推進役として町のマスコットキャラクターを作成し、町民の郷土愛を育むとともに町のイメージアップを図ります。</p>	5	<p>町マスコットキャラクターのデザインを全国に募集したところ、町内外から多数の応募があり、選考委員会において「井戸っこ（しすいちゃん）」に決定しました。</p> <p>デザイン発表・表彰式、着ぐるみお披露目式・特別住民票交付式など計画的に実施したことにより、町民の郷土愛を育むとともに酒々井町のイメージアップの一助となりました。</p>
<p>3 地域資源の活用に関する検討（企画総合調整班）</p> <p>平成25年春のアウトレット・モールの開業を好機ととらえ、町の地域資源を活用し、地域の活性化を図るため、アウトレット・モールと町内の地域資源を結びつけるモデルコース等を創出するための検討を行います。</p>	4	<p>地域資源の活用に関する検討会議により、アウトレット・モールと町内の地域資源を活用する方策を検討する中で、具体的には、町観光ガイドブックの必要性やマーケティング調査の効果などを提言し、実現に向けた一助とすることができました。</p>

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>4 ファシリティマネジメントの推進（企画総合調整班）</p> <p>町が所有している公共施設の半数以上が、建設後30年以上を経過しており、これらの施設を維持管理するための費用が町にとって大きな負担となることが懸念されている状況です。</p> <p>そのため、町財政を逼迫させないためには、建築物のストック群を長期的・総合的に維持・整備することが必要となることから、施設運営費の最小化、施設利用効率の最大化・変化への柔軟な対応ができ、健全な行政運営と住民サービス向上を図る方策として、これら公共施設を経営的な視点に立った管理運営に資することを目的としたファシリティマネジメントを推進します。</p>	<p>4</p>	<p>全庁的な町有施設の有効活用と長寿命化等総合的な施設管理を実施するため「酒々井町ファシリティマネジメント戦略会議」及び「酒々井町ファシリティマネジメント推進委員会」を設置、また、その基本的な考え方や取組むべき方策などを示した「町ファシリティマネジメント推進基本方針」を定めました。</p> <p>併せて、町有施設管理情報の一元化、情報の可視化を図ることを主な目的とし、「保全情報システム」を導入し、データ等の入力や基本的な使用方法などについて庁内担当職員への研修も実施しました。</p> <p>これらにより、ファシリティマネジメントの推進のための基盤整備を行うことができました。</p>

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>5 広報活動の充実（広報広聴班）</p> <p>行政情報をより多くの方に知っていただくため、「広報ニューしすい」の読者を増やしていく努力を行います。そのために住民に利益を与え、興味をもってもらふ紙面づくりに取り組み「誰もが簡単に全面を読み切れる」広報紙の編集を目指します。</p> <p>また、役場が行政機関として発信する情報をまとめた「町政便覧」と、町のガイドブックとして町民の暮らしに直接役立つ情報をまとめた「くらしの便利帳」をそれぞれ更新して、行政サービスの向上に努めます。</p> <p>一方で、広報づくりの財源となる「有料広告」の件数の拡大を目指します。そのため、広報紙や町ホームページ等で引き続き周知を図ってまいります。</p>	4	<p>関係部署と連携して、広報ニューしすいで、町の取り組みや政策課題などの行政情報を提供したことにより、町民との情報共有に寄与できたものと考えます。また掲載に当たっては写真やイラストを多く取り入れ「読みやすく、わかりやすい」広報紙ができたものと考えます。</p> <p>また、自主財源を確保するための有料広告掲載料についても年間で12万円を確保することができました。</p> <p>「町政便覧」と「くらしの便利帳」につきましても、関係各所の協力により、最新の情報に更新することができました。</p>
<p>6 広聴活動の充実（広報広聴班）</p> <p>広聴活動は、町政に対する提言等を聴き、それを反映したよりよい町政運営を推進する上で重要な役割を担っています。引き続き関係部署と連携して、的確な広聴活動の周知を図っていきます。</p>	4	<p>法律相談や心配ごと相談など各種相談事業を含めて、広報ニューしすいや町ホームページに掲載し、町民に的確な広聴活動の周知を図りました。</p>
<p>7 各種統計調査の実施（広報広聴班）</p> <p>今年度は、昨年度実施しました「経済センサス活動調査」の審査事務に加え、「就業構造基本調査」「工業統計調査」が実施されます。いずれも調査員の役割は重要であり、人員の確保と的確かつ正確な統計結果を得られるよう引き続き指導に努めてまいります。</p>	4	<p>経済センサスー活動調査の審査事務は、調査員の努力により回収された調査票の内容に空欄等の不備等が少なかったため、調査は無事に終了することができました。また、就業構造基本調査、工業統計調査についても適確な調査員を指名して、調査の特性等を詳しく指導した結果、適正な調査を行うことができました。</p>

8 チャレンジ目標

第5次総合計画のスタートとなる本年度においては、計画の中に記述されている町民と行政が一体となったまちづくり、特に「若い世代の定住」を目指した観点から、今、若者が普段から感じている「町の現実と未来」について、それぞれの思いや考え等を取り入れ、趣向を凝らした新たな広報紙づくりを試みます。

5

若者の目線で新たに情報発信しようという試みで、新たな広報紙づくりを企画し、順天堂大学の協力を得て、町民から編集員を募り、広報ニューしすい **Young Eyes** を創刊することができました。